



災害には十分注意しましょう

全国的に異常気象が続き、大雨などによる河川の氾濫や土砂崩れなどの自然災害が多発しています。これらはいつ身の回りに発生するかわかりません。

みなさんの家庭には非常持出袋は用意されていますか？ 用意されている方は、もう一度中身を確認しましょう。また、用意されていない方は、家族構成などを考え、大きさや重さに注意して準備しましょう。

せっかく準備しても、災害発生時に気が動転して持ち出すのを忘れては意味がありません。家庭内において日常的にどこに置いておくのかを決めておくことが重要です。

用意するものチェックシート付

<input type="checkbox"/> 飲料水（1人あたり1日3ℓが目安）	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> 医薬品（常備薬）
<input type="checkbox"/> 衣類（着替え、タオル、防寒具）	<input type="checkbox"/> 乾電池	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ
<input type="checkbox"/> ろうそくやライター、ホッカイロなど	<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> 筆記用具
<input type="checkbox"/> 貴重品（保険証や免許証など）	<input type="checkbox"/> 洗面用具	<input type="checkbox"/> 10円硬貨（公衆電話用）

※乳幼児のいる家庭では、これらに加えて紙おむつや粉ミルクなども必要になります。

各家庭にあった非常持出袋を作ってみてはいかがでしょうか。

消毒用アルコールの取扱いには充分注意しましょう

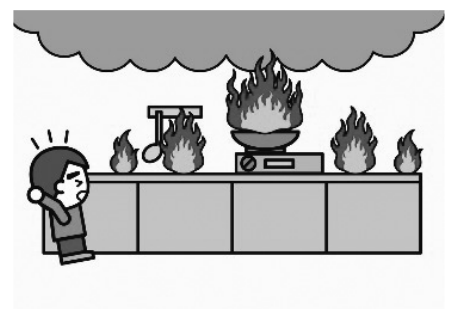
新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、手指消毒などのため、消毒用アルコールを使用する機会が増えています。実は、消毒用アルコールは火気により引火しやすく、また消毒用アルコールから発生する可燃性蒸気は空気より重く低所に滞留しやすい性質があります。

取扱いには十分な注意が必要です。少しでも取扱いを誤ると、火災などを引き起こすおそれがあり、ウォッカなどのアルコール濃度の高い酒類を使用して消毒する場合でも同様の危険性があります。

ここでは、消毒用アルコールの安全な使い方をご紹介します。

○火気の近くでは使用しないようにしましょう

手指消毒の際に使用する消毒用アルコールは、蒸発しやすく、可燃性蒸気となるため、火源があると引火するおそれがあります。消毒用アルコールを使用する付近では、喫煙やコンロを使用した調理など火気の使用はやめましょう。



○詰替えを行う場所では換気を行いましょ

消毒用アルコールの詰替えを行うときに可燃性蒸気が発生するおそれがあります。上文でも紹介しましたが、この可燃性蒸気は空気より重く、低所に滞留しやすい性質があります。消毒用アルコールの詰替えの際には、通風性の良い場所や常時換気が行える場所を選び、可燃性蒸気を滞留させないようにしましょう。

○直射日光が当たる場所に保管することはやめましょ

消毒用アルコールを直射日光の当たる場所に保管すると、熱せられることで、可燃性蒸気が発生します。保管の際は、直射日光が当たる場所を避けましょう。また、車内（ダッシュボードの上など）に常置し、可燃性蒸気が発生したことによる車両火災が発生しています。車内での常置及び取扱いには充分注意しましょう。

